



出小だより

URL <http://izumo-es.izumozaki.ed.jp/>

出雲崎小学校たより No.13

E-mail izumo-es@izumozaki.ed.jp

平成30年1月9日

謹賀新年!!

あけましておめでとうございます。年末年始は大雪予想でしたが大した雪も降らず、ゆったりと過ごされたご家庭も多かったのではないのでしょうか。

さて、いよいよ3学期が始まりました。29年度のまとめの学期です。毎年思うのですが、「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるようにあっという間に過ぎ去っていきます。

気持ちを新たに、新年の誓いを立て、

規則正しい生活を送ることが充実した1年につながると思っています。職員一同、心を一つにし、教育活動にあたっていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



～3学期の主な予定～

- 1月 9日(火) 給食開始 登校指導① 一斉下校指導
- 10日(水) 登校指導② 発育測定(上学年)
- 11日(木) 登校指導③ 書き初め大会
- 12日(金) 発育測定(下学年)
- 16日(火) 書き初め展(～19日)
- 18日(木) 学習参観日
- 25日(木) 2年スケート教室
- 30日(火) 学力検査(国語・理科)
- 31日(水) 学力検査(算数・社会)
- 2月 2日(金) スキー教室(5・6年) 五日町スキー場
- 7日(月) スキー教室(4年) 五日町スキー場
- 15日(木) 移行学級
- 19日(月) 全校お弁当の日
- 19日(月) 校内版画展(～23日)
- 23日(金) 学習参観日 学年懇談会
- 3月 2日(金) 6年生ありがとう集会
- 5日(月) 地域子供会
- 22日(木) 29年度修了式(3学期終業式)
- 23日(金) 卒業証書授与式
- 26日(月) 離任式



不易と流行を考える

「不易と流行」という言葉を、教育現場ではよく使います。元々の語源を辿ると松尾芭蕉に行きつきます。実は、芭蕉の残した言葉の中にあるようなのです。ただ、芭蕉自身が書き残したのではなく、弟子の去来などが書いたものの中に、芭蕉の言葉として残されています。それが、以下の文です。

「蕉門に千歳(せんざい)不易の句、一時流行の句と云う有り。これを二つに分かって数えたまえども、その基は一つなり。不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわきまえざれば風(ふう)新たならず」 (去来抄)

「不易」とはずっと変わらないことであり、「流行」とはその時々に合わせて変えていくことです。今回、学習指導要領というものが改正され、「英語学習」が小学校に導入されることはご承知のことと思います。これなどは、「流行」の範疇に入る出来事とっていいでしょう。

また、今までに「総合的な学習の時間」が導入されたり、「生活科」が導入されたりしたときも、「流行」だったのだと思います。ここで大切なことは「不変の真理を知らなければ基礎は確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」ということです。これは、「両者の根本は一つである」という考えに基づいています。

子供たちの教育や日常生活、遊びを考える上でも大いに参考になると思います。昔は公園で元気に遊びまわっていた子供の姿が見られなくなり、テレビゲームといった一人遊びが主流!?ともいえる時代、何が不易で何が流行なのか考え、どう流行と向き合っていくかが問われているのだと思います。そして、それをどう子供たちに伝えていくかが大切なのだと思います。「ゲームばかりやってないで、外で遊びなさい」といったところで、子供の心に響かないでしょう。

前述の松尾芭蕉は、俳諧上達の秘訣を聞かれ、

「過去の自分に飽きることだ。」

と答えたそうです。その意味は、常に努力を重ねつつ、さらに新境地を切り開いていくとすることからこそ、そこに進歩があり、物事の根本・本質により近づけると考えての発言だったそうです。

つまり、本質的なもの「不易」を追究するためには、常に変化「流行」をしていかねばならないのであり、変化する（流行を追う）場合も本質的なもの（不易）を踏まえていかねばならないと解釈することができます。

まさに、今の教育の進むべき道をも示しているように感じています。

【文責 校長 長尾昭浩】



学年のまとめの時期であると同時に、次年度の準備の時期でもあります。一日一日をしっかりと意識して過ごせるよう、声かけをよろしくお願いいたします。

高学年にもなると、大人のいうことはなかなか聞かないことも多いかもしれません。そんなときは大人が率先して態度で教えてあげてください。親がよきモデルであってほしいと思います。よろしくお願いいたします m(--)m